

山行報告

★白砂山(6月10日～11日)

参加者 会員(障害者3名、健常者4名)

☆6月10日

天気予報がころころ変わり、雨予報だった日曜日が晴れになり、晴れ予報だった土曜日が曇りのち雨になった。日曜日が晴れになったのはうれしいが、土曜日はいろんな花に出会えるのが楽しみ。雨が降ると写真が撮れなくなるので、花の写真を撮るときだけでも降るなと願って出発する。

東京は30℃を越すという予報だが、野反峠は肌寒い。とても半袖ではいられないので、長袖に着替えて出発する。

少し登ると、シラネアオイの群生地がある。そこまでの道も、ムラサキヤシオが咲き、コマクサも一株だけ咲いていた。コイワカガミは今が旬。たくさん咲いている。



シラネアオイ

シラネアオイは終わりかけていたが、まだ痛みの少ない旬のものもあり楽しめた。ミツバオウレン、ミツバツチグリ、ナエバキスミレ、ヒ

メイチゲ、ツマトリソウ、レンゲツツジなど、次々に現れる花たちを楽しみながら登っていく。時々ばらっと雨が降るが、本降りにはならず、カッパを着るのも寒さしのぎにちょうど良いくらい。



八間山山頂にて

浅間山や草津白根山もうっすらだが見えている。クマザサの広がる草原の道を登っていくと八間山に到着する。キャンプ場の人に聞いた「はちけんざん」と読むらしい。山頂からは、明日登る白砂山方面も何とか見えていた。



ムラサキヤシオ

八間山からは芽の尾根を下り、キャンプ場を目指す。最後は車道を歩き、野反ダムを過ぎたところにある野反湖キャンプ場まで行く。キャ

ンブ場に着く頃には本降りの雨になっていた。受付を済ませ、バンガローに入る。いつもながらの憩いのひとときを過ごして、備え付けの布団に潜る。布団1枚ではとても寒かった。薄いダウンジャケットを着て寝たがそれでも寒かった。



朝のキャンプ場で

☆6月11日

今日は、素晴らしい天気朝を迎えた。お湯を作って朝食を食べ、予定より25分遅れの5時25分にキャンプ場を出発する。野反湖の向こう側に昨日登った八間山が見える。すがすがしい朝は、白樺が青空に映えて美しい。駐車場で準備体操をする学生達の先を歩く。



イチヨウラン

まずは山腹を歩き、ハンノキ沢にかかる小さな橋を渡る。さらに行くと、ロープが張られた崩れかけている斜面をトラバースする。さらに小さな沢を渡って地蔵峠への登りにかかる。ここは最初の急登となる。尾根に上がり、少し行くと地蔵峠に着く。登山道から少し離れたところにお地蔵さんが奉られていた。お地蔵さんの前にはツバメオモトが咲いている。

地蔵峠の次のピークは地蔵山だが、標識がなく、山頂は判然としなかった。振り返ると志賀高原の岩菅山が見えてくる。足下には、マイツルソウやイチヨウランが咲いている。さらに登ると、残雪が現れ、その次は長い残雪の道になった。追い抜いていった大学生達はここで道を外してしまい、少しヤブを漕いで、登山道に戻ったらしい。



堂岩山山頂にて

ようやく傾斜が落ち、堂岩山に到着する。山頂にも残雪があった。ここはあまり展望が良くない。しかし、山頂を後に白砂山方面に少し歩くと、白砂山方面が開け、素晴らしい風景が見られるようになる。遠くの皇海山、武尊山、赤城山、榛名山方面までとてもよく見える。クマザサの尾根は気持ちが良い。アズマシャクナゲもたくさん咲いている。



堂岩山を背に

大学生達は、今日、学校に帰らなければいけないからと、次のピークの漁師の沢の頭で引き返してきたらしい。ここまで来てもったいないのではないかと思うが、判断はそれぞれだ。

私たちは、気持ちの良い大展望を楽しみなが

ら先に進む。すぐ左手には八十三山が見えるが、その右奥には左武流山が見えてくる。その左奥にはわずかに苗場山も見え始める。左武流山の左奥には鳥甲山も見える。



カッコウやウグイス、メボソムシクイ、ルリビタキ、コマドリの歌声もよく聞こえていた。尾根上に見える茶色の葉をした木は、ほとんどがミネザクラのようだ。

いくつかのピークを越え、白砂山への最後の登りにかかる。白い残雪を抱いた北アルプスの山々が、次第に高く見えるようになってくる。岩菅山の左手から杓子岳が見え、白馬鑓ヶ岳、天狗の頭、不帰嶮、唐松岳、五竜岳、剣岳、鹿島槍ヶ岳、立山、そして、爺ヶ岳から、針ノ木岳がよく見えるようになる。



山頂直下の稜線は、山腹をトラバース気味に登るため、サポートは要注意だ。みんなしっかり登ってくる。山頂に着くと、これまで見えなかった谷川岳、尾瀬、日光、平ガ岳、越後三山方面も見えるようになる。苗場山は、山頂の高層湿原に多くの雪を残している。肉眼と望遠レ

ンズからもはっきり分からなかったが、帰って写真を拡大してみたら、槍ヶ岳も見えていた。

志賀高原の草津白根山や横手山などももちろんよく見える。昨日は多くの花を楽しみ、今日は大展望を楽しむ山旅だった。山頂から去ることができず、2時間も休んでいるという人もいた。



山頂の大展望を楽しんだ後は、来た道を引き返す。時間的にはかなりオーバーし、予定のバスに乗るのは難しそうだ。Iさんがタクシー会社に電話して、野反湖まで来てもらうことにした。最初に依頼した時間では着けそうにないので、さらに時間を遅くしてもらったが、すでに近くまで来ていたらしい。最終的に待ち時間の料金も払わざるを得なかった。

それでも、全員無事に登山口まで下りてこられたので何よりだ。花と大展望の山旅を終え、吾妻線に乗り込んで、帰路についた。記：網干



《参加者の感想》

1日目の八間山は お花が沢山咲いていました。シラネアオイは勿論のこと由美子はイワカ

ガミにあえてうれしかったです。コマクサも咲き始めていて びっくりしました。

2日目は いよいよ白砂山です。青い空 寒いくらいの温度で 絶好の登山日和です。登っていくと雪渓があり、寒いのはそのせいなのですね！標高はあまり高くないのですが、奥にあるので登ってもすぐに下ってしまい、なかなかつきません。雪渓がたくさん残っている堂岩山を過ぎ、獺師の頭で、ようやく凜と立つカッコいい白砂山とご対面することができました。そこからの稜線にはシャクナゲお出迎えしてくれ、峰桜も咲き、ときどきカッコウの鳴き声も聞こえ、青い空の中気持ち良く歩きました。

頂上では 360° の大パノラマ、あたりの

山々には所々雪が残っていて自然芸の術に見とれていました。Yは、たくさんの花の名前、鳥の鳴き声を教えて頂きとても勉強になりました。気持ち良い天気の中、自然を感じながらのんびりできた山行でした。 記：Y.Fさん

コースタイム

6/10 野反峠(12:20) … 八間山(14:20-14:30) … 野反湖キャンプ場(16:15)

6/11 野反湖キャンプ場(5:25) … 地藏峠(7:25-7:30) … 堂岩山(8:50-9:00) … 白砂山(10:50-11:30) … 堂岩山(13:35-13:40) … 地藏峠(16:05) … 野反湖駐車場(17:05)

★羅臼岳(7月7日～10日)

参加者 会員(障害者 1 名、健常者 11 名)

☆7月7日

羽田から飛行機を利用して女満別で下りる。飛行機の手窓からは、飯豊や朝日、磐梯山、月山、鳥海山なども見えた。襟裳岬や阿寒湖も楽しめた。女満別空港に降り立つと、むっとした熱気に包まれる。東京よりも暑く感じた。夕方の気象情報では、35℃くらいあったらしい。



斜里岳

空港からはバスで女満別に向かう。すぐに北海道らしい緩やかに波打つ大地に広がる畑の風景が見られる。網走刑務所も見えた。小清水

原生花園付近は、キスゲの仲間などのお花畑が広がり美しい。斜里に近づくとも斜里岳がよく見えるようになる。後で聞いた話だが、斜里岳の沢沿いに行く旧道は、スラブや岩場が続くが、鎖やロープが付けられていないため、北アルプスの剣岳や穂高岳よりもずっと難しいとのこと。100名山では最も難しい山のようなのだ。



オホーツク海に沈む夕日

長いバスの旅も終わり、ようやくウトロに着く。ウトロもものすごく暑い。コンビニで買い物をして今日の宿、国民宿舎桂田まで歩く。オホーツク海が大きく広がる雄大な景色だ。

宿では、バイキングの料理を楽しみ、明日の登山に備えて、早々に床につく。

☆7月8日

ウトロには、タクシーが1台しかない。そのタクシーに5時半に来てもらい、3往復してもらう。待ち時間を作るのは時間があったいないので、人選をして、体力のある人ほど、あとで出発することにした。私は最後の出発で、6時40分に木下小屋を出発する。何でも、2班の人たちは、タクシーの中からヒグマを見ることができたらしい。



男性4人衆は快調に登る。3班に分かれて登ることになるため、それぞれの班にトランシーバーを持ってもらう。2班とはすぐに連絡が付いたが、1班にはつながらないようだ。

20年ほど前に登った時は、オホーツク展望台の下は、蟻塚が多く、ヒグマの多発地帯なので注意するように看板が立てられていたが、今回はなかった。展望台の岩の下には、タカネナデシコが咲いている。



チシマフウロなどを楽しみながら登ると、ようやく弥三吉水に到着する。大勢休んでいた若者が、「同じTシャツの人が少し前に登ってい

った」という。山仲間アルプのTシャツを着ていると、こんな時に役に立つ。若者に聞くと5分ほど前に出発したとのこと。我々も少し休憩してから出発する。この若者たちとは、山を下りる直前まで抜きつ抜かれつだった。



ミヤマスミレやウツギの花を楽しみ、羅臼岳の山頂が見えるようになると、2班のCさんと交信できた。少し上で休憩中とのこと。無線を使わなくても、すぐ上で声が聞こえる。ようやく全員が合流できた。

ゆっくりと登っていく。小さな沢となっている銀冷水に到着。ここには、簡易トイレ用のトイレがある。休憩の後は、山腹をトラバース気味に進む。左下に雪渓が見えるようになる。小さな雪渓を渡り、少し行くと大沢入口に着く。

沢に沿った登山道を登っていく。周辺にはエゾコザクラがたくさん咲くようになる。ピンクが美しい。



沢沿いには、雪渓が現れるようになる。しばらく行くと少し長い雪渓があり、その上は岩場になっている。さらにその上がどうなっている

のかは見えないので分からない。雪の上が不安な人は軽アイゼンをここで付ける。しかし、雪渓の雪は柔らかく、軽登山靴でも全く問題はない。雪渓の上の岩場で、アイゼンを付けた人は逆に歩きにくく、途中で取ることになる。岩場には、これもピンクのエゾコザクラがたくさん咲いている。チングルマも咲いている。



エゾコザクラのお花畑を歩く

登るにつれて、エゾコザクラ、エゾノツガザクラ、チングルマのお花畑が広がってくる。あの世を歩いているようなすばらしい美しさだ。ジムカデやイワヒゲ、チシマノキンバイソウ、イソツツジも咲くようになる。

羅臼岳が間近に見えるようになると、羅臼平に到着する。SさんとKさんが、山頂に登るのを止め、羅臼平周辺でゆっくりしているとのこと。二人に待っていてもらって、他のメンバーで山頂を目指す。



羅臼平から見た羅臼岳

ハイマツ帯には、イソツツジが多い。見えると思って目をこらすと、うっすらと国後島が見えている。うっすらなので、そう思って目を向けないと見えないくらいの薄さだ。



イワヒゲ

山頂がどんどん近づいてくる。水滴が落ちている岩場には、イワウメがたくさん咲いている。登るにつれて、完全な岩の道となる。岩場にも、エゾノツガザクラやイワヒゲ、キバナシャクナゲがたくさん咲いている。



山頂直下の岩場を登る

標高差約 1,400mの長い登りを経て、12時過ぎに羅臼岳山頂に到着する。斜里岳は見えなかったが、羅臼湖や知床別岳等が見える。知床岬側に目を向けると、硫黄山方面がよく見えている。知床五湖も見え、オホーツク海と国後島方面も見えている。すばらしい展望を見ながら、昼食を摂る。若者たちも山頂に到着した。お互いに集合写真を取り合って、下山にかかる。

羅臼平付近で待っているSさんにトランシーバーで下山を開始することを伝える。この知らせを受けて、Sさんたちも下山を開始することになる。

下山は早い。ぐんぐん下って、イワウメの咲いている水がしたたり落ちるところで、みんながそろそろまで待つ。水滴を水筒に集めていたGさんは、満タンになっていた。こちらコップ

に水滴をため、まずは自分でのみ、次にゆっくり下りてくる人たち用にさらに水滴をためる。いくら水分補給に役立った。



羅臼岳山頂にて

羅臼平を過ぎ、雪渓が終わるところで、SさんとKさんを発見。すぐ上にいることをトランシーバーで伝える。

下りも早く下りれるメンバーと、ゆっくり下るメンバーがいるので、タクシーが1台しかないことを考慮し、大沢を終えるところで、先発組と2班、3班に班分けをして、下ることにする。私は、KMさんと先に下ったSさん、Kさんと下ることにする。



羅臼岳山頂から見た硫黄山方面

銀冷水、弥三吉水を過ぎ、オホーツク展望台の手前で、先行していたSさんとKさんに追いつく。光る物などを見ると、木下小屋ではないかと思う。幻覚症状だと、4人で笑い合う。そして、やっと木下小屋に到着する。2往復目のタクシーを待つ男性陣が待っていた。全員の下山を喜び合う。ビールは宿泊者でないと買えないということなので、小屋の横の水場でのどを潤す。

3往復目のタクシーに乗り込んで、宿に向かう。ヒグマがいらないかなと車の中から目をこらしたが、見つからなかった。

宿では、屋外のテラスで夕食となる。涼しくて気持ちが良いが、暗くなっているため、蚊のような虫にたくさん刺されて、かゆくて仕方ない。20カ所位さされたようだ。今日はみんな疲れて、早々に休んだようだ。



キビタキ

☆7月9日

今日は別行動をするMさんを早朝見送り、今日自宅に帰る石巻のGさんを朝食後に見送る。残ったメンバーは、バスで知床五湖に行く。無料で行かれるのは1湖まで。2湖から5湖を巡るには、一人5,100円のガイド料を払わないと行かない。自然を守るため、安易に行かれないようにしたのだろう。



知床五湖にて

1湖までの木道も展望が良い。このコースは、世界遺産に指定されてから整備したようだ。昔来たことのある人は、こんな木道はなかったという。羅臼岳から硫黄山までの展望が一望できる。1湖が近づくと知床岳も見えてくる。

1 湖には、知床連山が写ってすばらしい。今日もすばらしい天気だ。



知床五湖からバスに乗って、ウトロに戻る。ウトロでは、宿の方に教えていただいた、うにいくら丼がおいしい漁港婦人部食堂に行く。ウニとイクラがたっぷり乗った丼に舌鼓を打つ。食堂の外には、席が空くのを待っている人たちもいた。この店の近くには、ゴジラ岩がある。



食後は、道の駅まで行って、土産などを買う。KDさんは、この近くで買い物をしたりするので、これから行く知床峠には行かないという。

残りのメンバーは、バスターミナルから知床峠に行く。昨日はぼんやりだった水平線が、今日ははっきり見える。国後島もよく見えるのではないかと考えていたら、知床峠から昨日よりもはっきり見えた。峠から見る羅臼岳も迫力がある。上空にはアマツバメが飛び交っている。

50分後の帰りのバスに乗って宿に戻る。今日は宿の最終日。まだ明るいテラスで夕食となる。沈んでいく夕日が美しい。



☆7月10日

昨晚は、テラスでたくさん歌を歌ったというが、私は覚えていない。きっとみんなが口裏を合わせているだけだろうと思う？

宿の方と一緒に集合写真を撮って、宿を後にする。道路脇には、ハマナスが咲いている。青い花をはハマベンケイソウだった。バスターミナルが近づくと、エゾスカシユリも咲いている。イソヒヨドリも見られ、身近な自然観察を楽しみながら、バス停に到着した。あとは、バスに乗って女満別空港へ。予想外に暑かった北海道に別れを告げ、飛行機に乗り込む。みなさん、お疲れ様でした。

記：網干



コースタイム

7/8 岩尾別温泉 (6:40) … オホーツク展望台 (7:15-7:20) … 弥三吉水 (8:05-8:10) … 銀冷水 (9:10-9:20) … 羅臼平 (10:40-10:50) … 羅臼岳 (12:10-12:40) … 羅臼平 (13:50) … 岩尾別温泉 (17:20)

7/9 知床五湖 (一湖のみ) 散策、知床峠散策

★大人と子どものふれあい登山（立山三山）（7月29日～30日）

参加者 会員(障害者2名、健常者8名
子ども4名)

登山道脇に雪渓があったので、そこを滑りながら下る。子どもたちも楽しそうにはしゃいでいた。

☆7月29日

「大人と子どものふれあい登山」最終回は、北アルプスの3,000メートル峰、立山三山の縦走だ。まず初日は、夜行バスで移動するため、無理をしないように別山乗越にある剣御前小屋まで登るだけの計画とした。

夜行バスで富山駅まで来て、電鉄富山駅から立山まで電車で行く。そこからケーブルで美女平へ。美女平からはバスで室堂まで行く。展望の良いバス路線は、残念ながら霧に包まれて展望がほとんどない。称名の滝も見られなかった。それでも、うとうとしながら外を見ていると、天狗平周辺では、車窓からニッコウキスゲなどが見られた。

室堂は、残念ながら雨が降っていた。おにぎりを2個ほど食べてから雨具を着る。外は霧に覆われているが、お花畑はきれいだ。チングルマやコイワカガミ等がたくさん咲いている。



ミクリガ池はまだ残雪が豊富にある。続いて血の池を過ぎ、有毒ガスの心配もある地獄谷の近くを通り過ぎる。今日は、危険なほどのガスは発生していなかった。

雷鳥荘から雷鳥沢のキャンプ場へ下る。途中、



雷鳥沢キャンプ場で休憩した後は、称名川を渡り、雷鳥沢の雪渓を登る。残雪は平年より少し多いようだ。雪渓を過ぎて小さな尾根の登山道に登る。霧が晴れると雷鳥沢のキャンプ場周辺が見える。残雪の模様が美しい。



登山道脇には、コイワカガミやチングルマ、ハクサンイチゲ、アオノツガザクラなどが咲いている。一面チングルマのお花畑もすばらしい。

登っていくと上の方からライチョウがいるという声が聞こえる。行ってみると、雌と雄のライチョウがいる。雌は木の芽などをついばみ、雄はじっとしている。その様子を見て、雄は抱卵しているのだと感じた。この時期は、雌のライチョウが子連れで歩く姿を見ることが一般的だ。今年は雪解けが遅れたために、産卵も遅れたのだろうか？ 冬が来る前に生まれた子

どもが冬を乗り切れるだけの成長ができるのだろうか？少し心配になる。どちらにしても、抱卵中に人が近づいたり、声を出すことは、親ライチョウを刺激して、抱卵を放棄する危険性があるため、できるだけ早く離れるように、見ている人たちに伝える。



水滴の中に咲くコイワカガミ

花の写真を撮りながら、雷鳥坂を登る。やや遅れ気味の人もいたが、今日は時間に余裕がある。ゆっくり登れば大丈夫。霧の中から、今日泊まる剣御前小屋が現れる。受付を済ませて、部屋に入る。そして食堂でのどを潤し、談話室で、他の登山者の人たちも交えて交流の時間。こんなところで「怪傑ハリマオ」を聞けるなんて感動していた人もいたらしい。一緒に歌っていた若い人は、子どもたちとトランプもして遊んでくれた。子どもたちの相手をしてもらえて感謝です。



雷鳥坂を登る

18時半過ぎ、周囲の霧が晴れ、西の空に夕焼けが見られた。外に出てみると、剣岳も見えている。雲の上に山頂からハツ峰まで見せている。今回、剣岳を見られたのは、これが初めて

最後だったが、見られたことは幸運だった。



剣岳

☆7月30日

昨晩は、19時過ぎにはもう眠りについていました。夜半に外に出てみると、霧で何も見えない。朝起きて、霧に包まれて何も見えない。ただ、天気予報は、昨日より少し良くなっていて、雨は降らない予報となっている。

3時半に起床し、朝食のおにぎりを食べ、4時半過ぎに出発する。すでに明るくなり始めていて、ヘッドランプを使う必要はなかった。

霧の中を黙々と登り、別山に登り着く。ここは、晴れていたら、最高の剣の展望台。しかし、今日は何も見えない。集合写真を撮って先に進む。



別山にて

一度下って、真砂岳への登りにかかる。時折、霧が薄くなるときがある。もしかしたら晴れる可能性があるのではないかと期待が膨らむ。

真砂岳の山頂で休憩し、富士の折立に向かうが、道標がなく、深い霧で周囲の地形も分からない。そのため、雷鳥沢に下る登山道に入ってしまった。後ろにいたIさんが、分岐があった

ので、そちらではないと思うと声をかけてくれた。スマホで現在地を表示してくれたKさんの地図を見ると、ちょうど分岐のところにいたので、後戻りはせず、トラバース道で富士の折立方面に行くことにする。IさんとKさんに感謝です。



富士の折立への登山道に戻ると、そこにはイワギキョウとチシマギキョウが咲いていた。そして、周囲が明るくなり、次第に霧が晴れていく。みんなから歓声が上がる。室堂方面が見え、大日岳も見えてくる。黒部側の内蔵ノ助カールも見えるようになる。室堂平には、ミクリガ池も見えている。青空が広がり、感激の一瞬となる。



しかし、立山三山の山頂方面はまだ雲の中だ。富士の折立に登っていくと、再び霧に包まれるようになる。

富士の折立で休憩する。数年前、六つ星山の会の方が、ゴールデンウィークにここのピークを往復しているときに滑落して亡くなってしまった。ご冥福をお祈りする。

ピークには登らず、立山三山の最高地点、大汝山を目指す。少し登っていくと、避難小屋に着く。大汝山のピークは小屋のすぐ裏だ。山頂で集合写真を撮って休憩する。残念ながら、霧に包まれて景色は全く見えない。



山頂を後にして、最後のピーク雄山に向かう。雄山のピークは雄山神社にあるので、お金を出さなければそこに行かれない。今回、我々のメンバーで雄山神社に行った人はいなかったようだ。



霧が薄くなってきたので、もしかしたら霧が晴れて遠くの槍ヶ岳まで見えるのではないかと期待したが、明るくなったものの霧は晴れなかった。一等三角点を見て、下山にかかる。

ここから一ノ越までは岩の道だ。子どもたちは元気に下るが、こちらはひやひや心配する。それでも、みんな無事に下っていく。一ノ越が近づく頃、登山道脇にライチョウの番がいた。今回2度目のライチョウだ。この2羽は、登山道まで出てきて、みんなを楽しませてくれる。ライチョウのために渋滞ができるほど、大混雑

だった。



子どもたちは一ノ越に1番に到着。待っている間、雪渓に下りて楽しませてあげることにする。Y君と雪合戦もする。



みんながそろって、少し休憩したので、下山にかかる。一ノ越から室堂への下りには、4カ所ほど雪渓を横切るところがある。軽アイゼンを出すこともなく、みんな順調に下っていく。

立山室堂山荘の横の広場に到着。入浴が可能か確認に行くが、今は入浴できる時間ではないとのこと。入りがっていた子どもたちもあきらめてバス停に向かうことにする。周囲は、チングルマや、ミヤマキンポウゲ、コイワカガミのお花畑。ヨツバシオガマやタテヤマリンドウ

も咲いていた。花を楽しみながら歩いて、バスターミナルに着く。

ここからは、トロリーバスで大観峰まで行き、そこからロープウェイで、黒部平へ。さらにケーブルカーで黒部ダムに行く立山黒部アルペンルートだ。黒4ダムでは、観光放水を写真に収めて、少し休憩時間を設け、トロリーバスで扇沢に向かう。バス乗り場には、石原裕次郎が書いた言葉を収めた記念プレートがある。ITさんは、感激していたようだ。

扇沢からは、さらにバスで信濃大町に行く。青々とした水田が広がる里の風景を楽しみながら信濃大町まで行き、そこからはあずさに乗って、新宿へ向かう。

記：網干



コースタイム

7/29 室堂(9:55)…雷鳥沢(10:45-11:00)
…剣御前小屋(13:20)

7/30 剣御前小屋(4:35)…別山(5:10-5:25)
…真砂岳(6:20-6:25)…富士の折立
(7:20-7:40)…大汝山(7:50-8:05)…
雄山(8:25-8:45)…一ノ越(9:30-
9:50)…室堂(10:45)

★登山知識及び技術向上コース（白馬三山）（8月4日～6日）

参加者 会員(健常者5名)

☆8月4日

夜行バスで猿倉に予定よりも2時間近く早

く着く。昨晚、白馬に泊まったメンバーは6時20分頃着く予定のため、2時間半くらい待たなければならないと思っていたが、タクシーで来てくれたおかげで、6時5分に猿倉を出発できた。

大雪溪に行くメンバーが多いが、白馬鑓温泉方面の登山道に入ると、登山者はめっきり少なくなる。今日明日は、猛暑の予報。下界の最高気温は35度以上になるらしい。まだ早朝なので涼しいが、これからどうなるか心配だ。



登山道にて

樹林帯の道を緩やかに登っていく。サンカヨウやキヌガサソウはすでに実を付けている。モミジカラマツやタマガワホトトギスは元気に咲いている。小日向のコルへの急登が始まる頃、お花畑に出会う。タテヤマウツボグサ、シモツケソウ、オオバギボウシ、ワレモコウ、ニッコウキスゲなどがたくさん咲いている。



サンカヨウの実

小日向のコルに着くと、杓子岳や鑓ヶ岳が雲の間から少しだけ見えている。雄大な風景だ。Oさんのザックにクロヒカゲが止っている。今回は、蝶に詳しいCさんも参加している。

小日向のコルから下りにかかると、今日の宿、白馬鑓温泉が見える。急な雪溪に囲まれた急斜面に立っている。すごいところに作ったものだと感心する。見た目には近そうに見えたが、かなりの時間を要した。それでも、早く着きすぎ

ないように花を楽しみながらゆっくり行くこととする。



小日向のコル付近を歩

クルマユリやクモマニガナなどが咲くお花畑が続く。山腹をトラバースしながら進み、水場で昼食タイムとする。直射日光はさすがに暑い。しかし、あまり日陰はない。



キヌガサソウ

湿ったところにはニリンソウが咲き、キンポウゲも増えてくる。尾根を回り込むと、杓子沢の雪溪を渡る。上部には滝が落ちている。さらに崩れ沢を渡る。樹林が切れてがれたところにサルたちがいた。雪溪を登るサル。まだ小さな子ザルもいる。雪が溶けたばかりのところには、フキノトウも見られる。スジグロシロチョウも舞っている。

広い雪溪を渡り、トラバースを繰り返す。登山道の下でルリビタキが何度も同じところを行ったり来たり。背景が雪溪のため逆光になってしまうが、何十枚も写真を撮らせてもらう。

少し急な雪溪を登り、途中からトラバース。小屋の下雪溪は、大きく崩れている。テガタチドリやエゾシオガマなどの咲く登山道を登

り、カンチコウゾリナの群落を過ぎると白馬鑓温泉は近い。



2日目の朝焼け

温泉に入って汗を流し、英気を養う。男子風呂は混浴のため、女性は水着で入っていた。汗を流した後は、関西から来たグループとの交流も始まり、午後のひとときを楽しんだ。



白馬鑓温泉の露天風呂

☆8月5日

今日は白馬岳までのため、比較的ゆっくりでできる。小屋の朝食を食べて出発する。小屋の荷物運びをしている方が、「ここから鎖場までは慎重に行ってくれ。そこから先はお花畑が広がるから」とアドバイスしてくれる。



展望の良い岩場を登る

小屋の左側にある雪渓の横の道を足下に注意しながら登っていく。雪渓から離れ、右寄りに道は取られている。しばらく行くと、上部には岩場があり、先行パーティーが登っている。

鎖の連続となる岩場をゆっくり登っていく。岩場は展望が良い。白馬岳は見えないが、雲海の上に柵池方面の稜線が見える。

この岩場を越えると、いきなり目の前にお花畑が広がる。チングルマやハクサンコザクラが咲き乱れている。右手には鑓ヶ岳が見え、左手には名前のない岩峰が見えている。ここからが大出原だ。



ミヤマキンポウゲのお花畑と鑓ヶ岳

次々に一面に咲くチングルマのお花畑が現れる。その中に、ハクサンコザクラ、ツガザクラの仲間、ハクサンイチゲ、クルマユリなどが咲き、上に上がっていくとミヤマゼンコ、ミヤマアキノキリンソウ、エゾシオガマなども咲くようになる。ウサギギクもたくさん咲き、アサギマダラも舞っている。



チングルマのお花畑

稜線が近づくとコマクサが咲き、イワツメクサ、チシマギキョウ、イブキジャコウソウなど

が咲くようになる。稜線に出たところで休憩する。黒部側は雲がわき上がり何も見えないが、これから登る鑓ヶ岳は石灰岩の山なので、白い山容がまぶしく感じる。



鑓ヶ岳

鑓ヶ岳への登りでは、イワオウギ、キバナノコマノツメ、タカネシオガマ、イワギキョウ、タカネツメクサなどが新たに見られた。

鑓ヶ岳の山頂で昼食タイムとする。ここにはシコタンソウが咲いている。山頂で出会った方が、ミヤマムラサキの写真を見せてくれる。途中でリンネソウも見つけたとのこと。リンネソウは20年ほど見ていないので、楽しみが広がった。



イワギキョウとタカネツメクサ

山頂からは、これから向かう杓子岳がよく見えるが、白馬岳は雲の中だった。

山頂からの下りでは、ムカゴトラノオ、ホソバツメクサなどが新たに見られ、ミヤマオダマキも見ることができた。白と紫のコントラストが美しく、コマクサよりも高山植物の女王と言えるのではないかと考えている。

ウルップソウは花が終わっていたが、ミヤマ

ウイキョウ、タカネイブキボウフウ、ミヤマムラサキ、ミヤマアケボノソウなどが咲いていた。「蝶がいるよ」と声がかかり、行ってみると、テガタチドリにアカタテハが止っていた。イワオウギと少し違うシロウマオウギも見られた。



シコタンソウ

杓子岳の登り口にザックを置いて杓子岳を往復する。Cさんは、登らずに先に行ったとのこと。何度かここを通過しているが、杓子岳の山頂は初めて。振り返ると雲に隠れていた鑓ヶ岳が姿を見せるようになっていた。



鑓ヶ岳山頂にて

杓子岳を往復して、少し歩いたところでCさんと合流する。ハクサンフウロやミヤマシュロソウも咲いていた。シコタンハコベはおしべがきれいだった。

Sさんから、「ライチョウの羽が落ちているよ」と声がかかる。保護色となるこの季節は、地面の色に似ている。私が花の写真を撮っているときに、ライチョウが見られたようだが、私が着いた時には見られなかった。先週、ライチョウをたくさん見ているので、今週は花優先だ。

ミヤマクワガタやアカバナの仲間が咲き、ヨ

ツバシオガマも咲いている。そして、リンネソウを発見。他の草の陰で見つけにくかったが、少し行ったところで再度発見。この付近は比較的多いようだ。



そして、今日泊まる村営頂上宿舎にようやく到着する。小屋の周辺はすばらしいお花畑。ミヤマキンポウゲとハクサンイチゲが非常に多い。そしてウルップソウもまだきれいに咲いていた。ミネウスユキソウも咲いている。

NさんとSさんは、白馬岳には登らないということなので、OさんとCさんと3人で山頂を往復する。Oさんは白馬岳には初登頂とのこと。展望がなくて残念だが、山頂に立てて良かった。途中ではミヤマダイヤモンドソウも咲いていた。

頂上宿舎に戻り、のどを潤してすぐに夕食となる。明日は、日の出前に出発するので、今日は早々に床につくことにする。



☆8月6日

今日は3時起床。長い下りが続くので、できるだけ早く出発したい。3時半には出発準備が整ったが、外は霧で視界が悪い。霧の夜は、道

に迷う危険性が高いので、少し様子を見ることにする。3時45分に外に出たら、星空が広がっている。すぐに出発することにする。



旭岳方面への分岐点は昨日のうちに確認済み。ヘッドランプを付けて、旭岳方面に向かっていく。旭岳をトラバースする手前の雪渓で、軽アイゼンを付ける。空には明けの明星が見られるだけで、明るさを増してきた。シルエットの白馬岳と明かりのまぶしい白馬山荘が見える。

雪は、ところどころ氷り、堅く締まっている。アイゼンがこぎみよく決まる。雪渓を過ぎたところでアイゼンを外す。旭岳のゴーロ帯をトラバースしていく。



裏旭岳付近で朝食タイムとする。ここにはミネズオウが咲いている。この付近もハクサンイチゲとチングルマのお花畑だ。

これから向かう小旭岳と清水岳が見えている。裏旭岳を下り、尾根の北側をトラバースしているとき、Sさんが少し足を踏み外した際、左の足首を痛めたようだ。少し行ったところで、

テーピングする。

この尾根はイブキトラノオが多い。北側には鉢ヶ岳と朝日岳が見えていた。雪倉岳は鉢ヶ岳の陰になって見えなかった。



今まで雲に覆われていた南部が次第に見えるようになる。雲海の上に浮かんでいた山を剣岳と思ったが、それは立山だった。立山三山も縦から見ると、以外にとがって見える。少しすると剣岳が見えるようになった。さらに遠く槍ヶ岳も見えた。



後立山方面は、鹿島槍の双耳峰と五竜岳も見えてきた。次第に杓子岳と鉢ヶ岳も見えるようになる。Sさんは痛いであろうと思われるが、一言も「痛い」といわずにがんばって歩いている。

コマクサのお花畑があり、マツムシソウも咲いている。次から次へと今回新しく見られる花が現れる。

清水平の水場は、ハクサンコザクラが多い。そして、清水岳山頂入口には、ミヤマアズマギクが咲いていた。

清水岳を過ぎ順調に下っている。タカネナデシコやハクサンシャジン、ハクサンチドリなども咲いている。



時間がかなりオーバーしているため、みんながんばって歩いている。次々に現れるお花畑を楽しみながら下り、樹林帯へと入っていく。そして、8時45分に不帰岳避難小屋に到着。ここで、途中、抜いていった単独の男性に会う。「思ったより早いね」と彼はいう。



少し行ったところに水場があるので、水を汲みたい人のペットボトルを預かり、先に行って汲んでおくことにする。

ここからの道は、急斜面のトラバースが多くなり、足下が不安定になる。それでも、センジュガンピが咲いていて癒やされる。

なかなかペースが上がらず、予定の電車は無理だが、今日中に帰れない可能性も出てきた。それでも、ようやく百貫の大下りまで来た。ここは非常に急で注意が必要だ。ここを下ると、今度は沢のトラバースが続く。沢自体は問題ないが、その両側が切れ落ちていて、外傾した滑

りやすい踏み跡が付いているだけで、非常にいやらしいところだ。滑り落ちたら、まず助からない。慎重に通過していく。

CさんがSさんに付いて、最後に下ってくれているので助かる。ロープの付けられた急な階段を過ぎ、ロープがなければ滑り落ちそうなところを、ロープ頼りに下り、沢を渡り、さらに外傾して非常に滑りやすい踏み跡を通過したところで、全員集合する。



ロープ頼りに沢に下りる

NさんとSさんは、今日は、祖母谷温泉に泊まっても大丈夫ということになり、Oさん、Cさんと私で先を急ぐことにした。

ここから先は、楽な道ではないが、今までのような危険はなくなった。ぐんぐん下りていくが、長い下りのためにCさんが休み休み下りるようになった。それでも、確実に下りてくる。

ここを下れば、名剣沢に下りるというところにロープが張られた急なところがあった。ロープを使うと振られることもあり、ロープを使わず左側を下りるようにOさんに言ったが、あまり良いアドバイスではなかったかも知れない。Oさんが足を滑らせて、3mほど滑落してしまった。けがなどはなかったが、心理的に少しショックになってしまった。Cさんも追いついてきた。

少し名剣沢に沿って下り、右手に入ると、林道になっていた。電車の時間等を確認するため、一人で先に祖母谷温泉に向かう。

樺平発の終電のトロッコ電車では今日中に家に帰ることはできない。樺平発16時43分

の電車に乗ることにする。3人は大急ぎで風呂に入り、出発準備をする。遅れているSさんとNさんはまだ来ない。温泉の方に、メモで私の電話番号を渡し、もし18時を過ぎてても下りてこないときは連絡してほしいことを伝える。もしもの場合には、戻ってくるつもりだった。



祖母谷温泉の露天風呂

16時に温泉を出て、下りてきた林道を見たとき、白いものが動くのが見えた。「ヤッター、二人が下りてきた」。時間ぎりぎりのため、言葉を交わすことはできなかったが、手を思い切り何度も降って分かれた。

まだ樺平までは40分歩かなければならない。それでも、二人が下りてきたので、気持ちは軽い。樺平から懐かしいトロッコ電車に乗り、宇奈月から電鉄富山の電車で新黒部下車。隣にある黒部宇奈月温泉駅で新幹線に乗って、東京へ向かう。

一面のお花畑、100種類近い花、雪渓の横断、山上の温泉、多くの蝶、長い下り、厳しい沢の横断など、様々な思い出を胸に乗った新幹線では、最初から最後まで爆睡でした。みなさま、お疲れ様でした。 記：網干

コースタイム

8/4 猿倉(6:05) … 小日向の科尔(8:50-9:05) … 水場(10:00-10:30) … 白馬鑓温泉(12:40)

8/5 白馬鑓温泉(6:35) … 稜線(9:55-10:25) … 鑓ヶ岳(11:00-11:35) … 杓子岳(12:50) … 村営頂上宿舎(14:50-15:10)

…白馬岳(15:40)…村営頂上宿舎(16:10)
8/6 村営頂上宿舎(3:45)…裏旭岳(4:50-5:15)…清水岳水場(6:45-6:55)…不帰

岳避難小屋(8:45-9:00)…3つめの沢(12:20)…祖母谷温泉(15:30-16:00)…
樺平駅(16:35)

※雨のため妙義山が、参加者不足のため小檜山と登山知識及び技術向上コース（荒沢岳・末丈が岳）が中止となりました

講習会報告

★岩登り技術講習会（日和田山）（6月18日）

参加者 会員(障害者1、健常者4名) を登る。

今日は、一時雨の予報の時もあったが、直前の予報は夕方から雨に変わった。



女岩を登るY君

日和田山は、多くの人で大混雑。日が陰って比較的涼しく、岩トレには絶好の日和だ。今回は、直前で1人増え、5人の参加となった。小6のKRちゃんは初参加。しかし、めずらしくKさんが目覚ましをかけ忘れ、遅れてくることになる。Hさんと私が先に行って登っていることにする。

男岩は、隙間がないほどにロープが垂れ下がっている。そこはあきらめて、女岩の南面でトレーニングすることとする。一番優しい入門ルートはすでに男性3人組が使っている。私たちは、そのすぐ右側の少し難しい壁を登ることにする。最初からトップロープをセットして、中央部のフェースと右端のレイバックのルート



岩登り初挑戦のKRちゃん

2本登ったところで、Kさん一家が到着。早速準備して、Y君が登る。前回より少し難しい隣の壁にチャレンジ。一番難しいところを登ったのに、そこから先には登りたくないという。



日和田山にて

次は岩登り初挑戦のKRちゃん。隣の人たちからルートを譲ってもらって、入門コースを登る。最初の箇所でぐずっていたが、そこを突破するとすいすい登る。下りは、やっぱりロープにぶら下がるのがいやらしい。クライムダウ

ンで下りてくる。最後のところは、足が固まって動けず。アドバイスを求めるが、アドバイスはうざいと思うところもある。それでも何とか、下の岩に足が付いて終了。

昼食後は、女岩南面の一番左端の壁を登る。

子どもたちはもう終了。子どもたちの行動にははらはらどきどき。

東京ではすでに土砂降りのところもあるようだが、日和田山は雨に降られる前に岩トレを終えることができた。 記：網干

キャンプ報告

★第10回ふれあいキャンプ（いなかの風）（8月26日～27日）

参加者 会員(障害者2名、健常者4名)
会員外(健常者1名)

り込む。コンビニに寄ってもらった。私はノンアルコールビール。それぞれに好みの飲み物を購入する。

☆8月26日

新宿発10:35分の電車に乗り、高尾、小淵沢、岡谷で乗り換え、飯田線の飯島駅まで青春18きっぷで行く5時間半の普通電車の旅。青春を生きている若者はいないが、中高年と子どもたちを足して2で割れば、40歳くらいになるだろうか？ それでも青春ではないが、気持ちだけは青春で行こう！



飯田線の車中にて

飯田線に乗ると、中央アルプスが近づいてくる。やはり宝剣岳をまず探す。駒ヶ根から宝剣岳がよく見えた。途中、南アルプス方面も見えていたが、南アルプスは、山が深い。塩見岳や荒川岳など、はっきり分からなかった。臀部から右足の痛い私は、立ったり座ったりを繰り返して、長い電車の旅を乗り切った。

飯島駅で下車し、予約していたタクシーに乗



いなかの風キャンプ場でバーベキュー準備

いなかの風キャンプ場について、受付を済ませ、予約していたテントサイトへ。テントやタープ、テーブル、イスなどは軽トラで運んでもらえる。テントは自分たちで立てたが、タープはよく分からないし、天気の良いので、必要ないと思い、立てずにいたら、キャンプ場の人が立ててくれるという。



中央アルプス上空の夕焼け

竈がないので、石を4個竈風に並べたところで、バーベキューをするのかと思っていたが、

Nさんが管理棟に行って、バーベキューセットをレンタルしてきてくれる。火をおこして、バーベキューの始まり。

その頃、中央アルプス上空の雲が茜色に染まり、すばらしい光景が見られる。



バーベキューが始まる

子どもたちは、小さなところに潜り込みたいのか、私が持参したツェルトに今日は泊まりたいという。だけど、大人にも真ん中で一緒に泊まってほしいという。KMさんが一緒に泊まってくたさる。



ギター演奏に合わせて歌う

バーベキューは忙しい。飲む時間も少なく、どんどん食べないと丸焦げになってしまう。人心地ついたところで、KRさんのギター演奏で、歌の始まり。ただ、今回は、飲む人が少なく、時間も20時以降は静かにしなければならないということで、盛り上がりには欠けてしまった。

H君が持ってきた花火を楽しみ、とどめの焼きそばを女性陣に作っていただいて食べる。夜空には、はくちょう座や北斗七星、カシオペアが見られ、夏の大三角、天の川も見られた。

そして、話をしながら、いつしか夜も更けて、

眠りについた。



朝食はそうめん

☆8月27日

6時起床の予定だったが、5時半頃にはみんな起きてきていた。キャンプサイトからは、宝剣岳から空木岳、南駒ヶ岳方面までよく見えている。このキャンプ場は、展望が抜群だ。

朝は、KMさんが買ってきてくださったあんみつから始まる。その後、そうめんをゆでて食べる。ここの水場ではお湯が出るのがありがたい。そうめんもたらふく食べることができた。



中央アルプスが一望できるキャンプサイト

キャンプ場内を散歩すると、キンエノコロが逆光に輝いて美しい。キャンプ場内には水田もある。月見草もきれいに咲いていた。カワウの群れが、V字編隊を作って上空を飛んでいく。

テントの前でみんなで記念写真を撮る。テントやタープはそのままにしておいて良いとのこと。これもありがたいことだ。

管理棟に行ってチェックアウトをして、迎えのタクシーを待つ。少し早めに迎えに来てくれたタクシーに乗り込み、コンビニ経由で飯島駅に送ってもらう。飯島駅から見えていた南アル

プス方面は、深南部の山々だろうか？ 山座同定はとてもできなかった。



2両編成の飯田線に乗って、帰路につく。帰路も同じ路線だが、帰りは乗り換えを含めて6時間ほどかかる。私は電車が空いたところで、横になって痛みを軽減させていたが、酔っ払いと間違われていたらしい。

各種連絡事項

▲2018年度に行ってみたい山やハイキングの場所候補募集

これから年末にかけて、2018年度の事業計画案の作成を開始します。会員みなさまから、行ってみたい山やハイキングの場所を募集します。

まだ、みんなと別れたくないというKRさんに申し訳ないけど、今日はそのまま解散となる。1日目の夜が短かったことが、やや欲求不満な感じだったが、子どもたちは楽しんでもらえただろうか？ もうこれで、夏休みも終わりだね。

記：網干



募集しても全てを計画できるわけではありませんが、2カ所程度、採用できるように努めたいと思います。

会員情報

◎新入会員のお知らせ

6月以降、入会、退会ともありませんでした。

編集後記

・理事長のつぶやき

20代の頃は、思い切り自分のための山を楽しんでいました。剣や穂高であっても登山道のあるところは、コースタイムをどれだけ短縮できるかを求めています。それはトレーニングの一環で、自分の山は、大きな岸壁であり、冬山だと思っていました。土浦にいたときも、桑

名にいたときも素晴らしい仲間巡り会えて、技術と体力を高めることができました。

30代半ばになって、ひょんなことから視覚障害者と登山をする六つ星山の会を知り、すぐに会員となって活動を始めました。そこでの登山は、自分のための山ではないので、どんな低

山でもかまいませんでした。月例山行には、仕事など私用がないときには必ず参加していました。個人山行にもたくさん誘っていただきました。若い健常者の人たちの登山技術を高めたという思いもあり、健常者同士で沢登りや冬山に行ったときもありました。中途失明の全盲の男性と春の剣岳に黒部ダムから登りに行ったこともありました。

45歳で設立した「山仲間アルプ」ももうじ

き15年が経過します。若いときのように大きなリスクにチャレンジしようとする精神は、さすがになくなってきました。

これから何を求めて生きていくことが自分に一番合っているのか、80代になっても雪の北穂を目指す人や、75歳を過ぎても仕事を続ける人なども参考にして、自分のこれからを考えていきたいと思っています。

みなさまは、どんな思いで生きていますか？

・次回発行予定は、12月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。
自然は、誰に対しても平等だよ！！

